

平成22年度 長期研修生研究報告概要

鳥取県教育センター 学校教育支援室
長期研修生 戸國 義樹

1 研究テーマ

学校ビジョンの共有化による学校組織マネジメントについて
～ 鳥取工業高校における学校改革への取組み ～

2 はじめに

本校は昭和14年に創設され、製造業を中心とした地域産業の人材育成を担ってきた。現在は、工業学科として機械科、制御・情報科、電気科、建設工学科の4学級、理数工学科1学級の1学年5学級190名定員である。近年の高校教育をめぐる状況を見ると、グローバル経済の進展、世界的不況による求人激減、少子化による生徒を減らして普通高志向から専門高校の入学希望者減、入学者の学力低下といった課題がある。一方、地域産業を維持していくためには、ある程度以上、専門性を有する生徒を育成することが求められている。本研究は、平成21年度に続き、鳥取工業高等学校がどのような教育を行うべきか、鳥取工業高等学校の存在意義の高揚を図るにはいかに改善すべきかを、学校全体で真剣に議論し改善を模索してきた研究と実践を報告するものである。

3 研究の目的

本研究は、学校ビジョンの確立とその共有化による学校組織マネジメントという手法を用いた、鳥工における学校改革を目的とする。

4 研究内容

(1) 学校改革プロジェクトによる推進

本校独自の教育改革を、本校職員自身による学校改革プロジェクトによって推進することとした。

① 学校独自の教育改革への取組み

本校の現状と課題を、時間をかけて把握し学校の在り方を本校職員自身で主体的に検討するため、平成21年度当初に学校改革プロジェクトを設置し、調査・研究・協議を行って、職員会議へ諮りながら進めるものとした。

② 学校改革プロジェクト検討手法

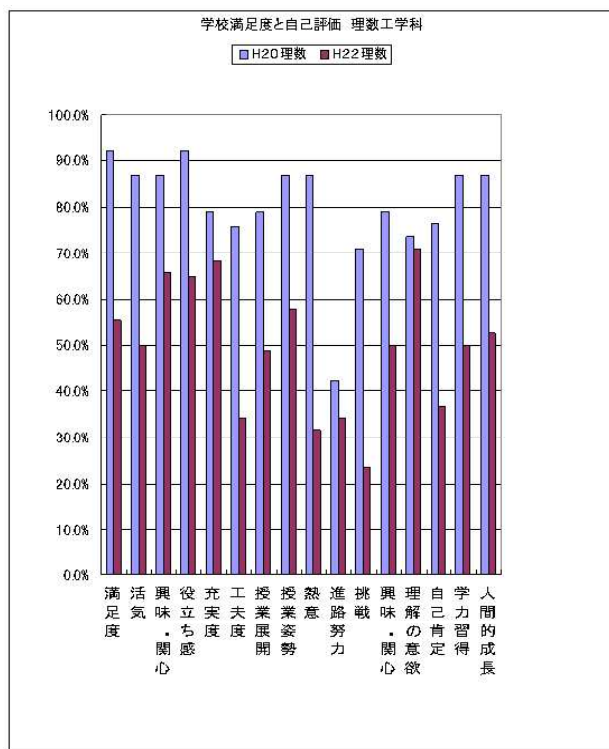
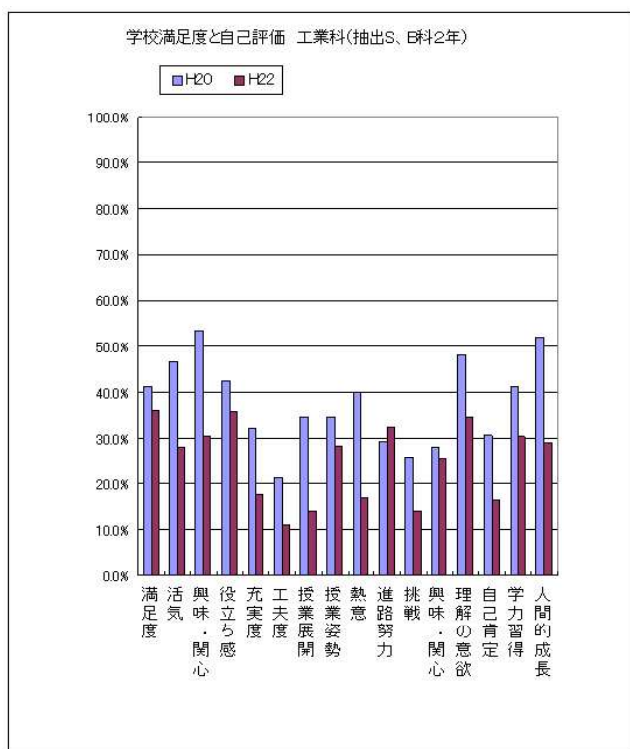
先進校の研究（学校見学等を実施）、中学校への聞き取り、生徒・保護者の満足度調査、教職員の意識調査、地域産業会、大学等との意見交換、校内での議論を手法とした。

③ 学校改革プロジェクトで明らかになった課題

明らかになった課題は、生徒募集に向けた取組み、くくり募集など入試改革の検討、教育内容の充実（・工業科の共通実習導入・工業科の授業時間数増・生徒の基礎学力の伸長・教員の授業力の向上・資格取得の一層の推進）、生徒指導の充実、部活動の充実、進路指導の一層の充実、地域産業界との一層の連携であった。

(2) 生徒・保護者アンケートの実施

昨年度、取り組むことを決定した事項に「基礎学力伸長」、「授業力改善」、「生徒指導の充



実」がある。これらは、本校の年間教育目標の「確かな学力の育成」および「豊かな人間性の育成」と関連があり、再度課題を洗い出すため、生徒および保護者の意識調査を実施した。アンケートは高等学校課高校改革推進室が全校対象に作成し、平成20年度に実施したものを流用し、結果について比較も行った。その結果、以下の点が明らかになった。

①学習指導に関しては、「授業・学習」「教師」「自己評価」の項目で低下している。

②生徒自身の「自己肯定感」の低下が顕著である。

(3) 教職員アンケートの実施

生徒・保護者アンケートの集計結果を、職員会議で全教職員に配布し、周知を図った。さらに、明らかになった課題について、教員の感想と意見を求め、アンケートを実施した。このアンケートについては、学校の教育目標の根幹部分について、全教職員が正面から向き合うきっかけとなった。

(4) 先進校視察

先進校視察等によって、以下の取組みのポイントが得られた。

①自己肯定感、自己有用感の高揚（「生徒主体、生徒が主人公の場を作り光輝させる」）

②愛校精神、学校有用感の高揚（資格取得、高い就職進学実績）

③生徒の職業観・技術観の育成（ジュニアマイスターの取組み、資格取得）

④保護者、地域、県民外部評価の高揚（世間から信頼される生徒・学校、学校PR発信、資格取得・社会貢献事業、生徒指導、躰け、あいさつの徹底）

5 研究の考察

(1) 鳥取工業高等学校の存在意義について

学校の存在意義が学校の基盤であるため、学校改革にむけてその存在意義を考察した。

・工業技術教育を通じての人間育成の場（知育・徳育・体育）

・工業技術修得の場

・地域・国内など産業を支える人材育成の場

(2) 学校の存在意義の高揚による鳥工ブランドの構築について

学校の存在意義に基づいた学校の価値観の高揚を図ることが、学校改革において重要であり、そのことによる鳥工ブランドの構築が可能であると考えられる。

①生徒の価値観の形成

・自尊感情、自己有用感の高揚

・愛校精神、学校有用感の高揚

・生徒の職業観・技術観の育成

・世間から信頼される生徒・学校（保護者、地域、県民外部評価の高揚）

②価値観の形成への方策

・生徒主体、生徒が主人公の場を作り光輝させる。

・資格・検定取得の充実（ジュニアマイスター取得数を通じてのPR）

・正しい道徳観や、正義が成り立つ社会の一員としての生徒指導の充実

・学校で努力し成長する結果としての進路保障の充実（高い就職率と国立大学入学者数の充実）

(3) 学校改革におけるアンケートの有用性について

調査結果を検証し、職員会議に協議しやすい形に焦点化し、重点化して教職員集団に伝えるという手法は、学校組織マネジメントにおいて有効な手立てであり、今後の学校改革のみならず、あらゆる学校の課題について活用が可能である。

6 研究の成果と課題

(1) 研究の成果

研究の成果として、以下の点が得られた。

・学校改革プロジェクト委員会によって、学校改革にむけての問題意識の共有化が図れた。

・生徒、保護者アンケートを実施し、現状の生徒の状況を把握し問題点を焦点化することができた。

・生徒、保護者アンケートを用いて学校改革プロジェクト委員会、職員会議による協議を行うことによって、現状の問題点を共有化することができた。

・教職員アンケートの実施によって、問題意識の共有化が図れた。

(2) 研究の課題

研究の課題として以下の2点が上げられる。

①生徒を輝かせる場としての学校づくり、顧客満足度の高い学校づくりにむけての教職員の意識の共有化

②幼稚園から高等学校までを一貫した技術教育の視点の共有化（中学校技術家庭との連携）

7 おわりに

学校改革を中心に工業高校の存在価値や、顧客満足度の視点や、生徒主体の視点といった、教育活動の基本について研究することができ、このことをぜひ今後の教育活動に生かしていきたいと考える。

教職員の意識の共有化を図り、学校改革にむけての取組みが生徒一人ひとりを輝かせるように、さらに顧客満足度の高い学校づくり、生徒主体の学校づくりが前進するように引き続き研究・実践を深めていきたい。